

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名 富山大学人間発達科学部 地域スポーツコース
- ・所属ゼミ スポーツマネジメント研究室
- ・指導教員 神野 賢治
- ・代表学生 原田 拓真
- ・参加学生 金 賢吾 板坂 柚果 (協力)

【研究題目】ボッチャを通じたユニバーサルスポーツ振興について(B 課題研究部門・魚津市)

1. 課題解決策の要約

魚津市で毎年開催される「ミラたんカップ・魚津市ボッチャ大会」(以下ミラたんカップ)は参加者の再参加意欲・満足度ともに非常に高いことが示唆された。また、参加者の多くがボッチャを通じた知らない者との交流を望んでいることから、年齢・性別関係なく誰でもできるというボッチャの特性も相まって多世代交流のためツールとなることが期待される。しかし、大会参加者の年齢層は非常に高く、若年層の割合が低いということが明らかとなった。今後は大会を継続して開催することをはじめ、若年層に向けてのボッチャ体験イベントの施策を行うことによって、ユニバーサルスポーツへの参加の増加、多世代交流の場の創出が期待される。具体的なアクションを以下に挙げる。

- 1) 若年層の参加者を増やすために小学校だけでなく中学校、高等学校でもキャラバンを行う。
- 2) 再参加意欲・満足度ともに非常に高いため、来年度以降も継続的に大会を開催する。
- 3) 参加者の交流の場を作る。具体的には、全試合終了後に大会メンバーをランダムで組み合わせたエキシビジョンマッチを行うことや大会後に交流できるようなレセプションの場を設ける。
- 4) ボッチャだけでなく複数のユニバーサルスポーツと同時体験会を開催し、ユニバーサルスポーツへの理解をさらに深める。

2. 調査研究の目的

スポーツ基本法第9条に定められている、「スポーツ基本計画」の第3期では新たな視点として、性別・年齢・障害の有無・経済的実情・地域実情に関わらず、すべての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すことが掲げられている¹⁾。そのような中で、魚津市は障がいのある有無を問わず誰もがができるスポーツであるユニバーサルスポーツ(パラスポーツ)のボッチャというスポーツの普及活動に努めている。ボッチャを通じたユニバーサルスポーツ振興を行うにあたって、年に一度のボッチャ大会をありそドームで開催している。そこで、本研究ではボッチャ大会に参加している参加者を対象に以下の目的で調査を行った。

- 1) ボッチャ大会の参加者の特性を顕在化させ、次回大会に向けて提言を行う。
- 2) 魚津市におけるボッチャ大会を中心としたユニバーサルスポーツの更なる普及について検討する。

3. 調査研究の内容

1) 先行研究知見の整理

2021年に行われた東京パラリンピックによって、パラスポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が醸成された。日本パラスポーツ協会(JPSA)が行った15~79歳の男女2900名を対象に行っ

た調査によると、「パラスポーツの認知度」は東京大会直後の2021年9月時点で79.4%と高水準を示した²⁾。しかし、中村(2022)が2022年2月に行った8671人を対象に行った調査によると、「パラスポーツに関する経験」は94.4%が経験なし、4.3%が1~2回、1.3%が3回以上と、ほとんどの人がパラスポーツを経験したことさえないということが分かった³⁾。このような現状を踏まえ、日本パラスポーツ協会(JPSA)は2022年9月、「『2030年ビジョン』~活力ある共生社会の実現に向けて~」を打ち出し、パラスポーツの更なる発展に向けて動き出した⁴⁾。ミッションの一つとして掲げられているのがパラスポーツの普及拡大の環境作りである。具体的には、全国のパラスポーツ大会の発展であり、パラスポーツ大会の発展を実現させるためには、大会参加者の属性やニーズを把握することが重要となる。しかし、現在、パラスポーツ大会の参加者に対して行った調査や研究は僅少である。そこで、本研究では、富山県魚津市で毎年行われているボッチャ大会において参加者調査を行い、大会参加者の属性を把握する。そして、次回以降の更なる発展に向けて、提言を行いたいと考えている。

2) 事前フィールドワーク

① ボッチャ体験 in キッズスポーツキャンプ

株式会社RIGHTS.が2023年8月19日(土)から21日(月)にかけて、小学生を対象にした宿泊型スポーツキャンプを開催した。魚津市出身でリオパラリンピック銀メダル、東京パラリンピックでは銅メダルを獲得したボッチャ競技選手である藤井友里子氏がアスリート講師として参加した。当研究室はイベントの運営及び指導補助として携わった。イベントの中で藤井氏からボッチャのルールを学ぶとともに、コート設営の方法などを教わった。



写真1

キッズスポーツキャンプにて
藤井さんのボッチャ体験の様子

② ボッチャキャラバン

魚津市教育委員会が主催する小学生に向けたボッチャ体験会、通称「ボッチャキャラバン」に参加した。2023年11月10日(金)に魚津市立清流小学校、11月14日(火)に魚津市立道下小学校を訪問した。キャラバンでは、小学生が学年、性別関係なくボッチャを楽しんでいる様子が見受けられた。この体験会を通して、子どもへの指導法について学習した。



写真2

魚津市教育委員会との打ち合わせの様子



写真3

ボッチャキャラバンの様子

③ 富山県共生スポーツ協議会

公益財団法人ゴールドウィン西田東作スポーツ振興記念財団が主催する富山県共生スポーツ協議会に学生メンバーとして参加した。12月8日(金)に開催された当該協議会では、共生スポーツ社会の実現に向けた情報共有・提案・意見交換が行われた。具体的な内容としては、日本パラスポーツ

協会国際部安岡氏による「I'm possible プログラム」の紹介と情報共有、富山県障がい者スポーツ協会事務局長の恒川氏による「富山県の障がい者スポーツに関する現状と課題」の共有が行われた。

3) アンケート調査及び大会への参加

先行研究と事前フィールドワークで得た知見をもとに感じた、ボッチャの諸特性を活かし、ボッチャが子ども年代から高齢者年代までの多世代交流のツールになりうると考えた。そこで、魚津市で毎年開催されるミラたんカップがボッチャを通じた交流の大きな場になると考えた。よって、当該第3回大会の参加者の属性を把握することがさらなる機会の創出につながると予測し、魚津市教育委員会の協力のもと、参加者調査を実施した。参加者調査に加えて、実際にユニバーサルスポーツを通じた交流を体験することが大事だと考え、学生でチームを結成し大会に出場した。学生のうち2名は車いすに乗って大会に参加した。12月10日(日)に行われた該当大会において、調査を実施した。試合を終えた参加者100名にアンケートを行い、82部を回収し、そのうち81部の有効回答を得ることができた。有効回答率は81.0%であった。



写真4
開会式にてアンケート調査の説明をする様子



写真5
みらたんカップに参加する様子



写真6
大会中にアンケート調査をする様子

4. 調査研究の成果

1) 大会参加者の諸特性

本調査サンプルにおいて、対象とした参加者の性別は男性が51.9%、女性は48.1%であった。平均年齢は52.73歳±20.63年であり、年代は70歳代以上が24.7%と最も多く、次いで多かったのが50歳代で19.8%であった。最も少なかったのは20歳代で4.9%であった。チームメンバーの関係性は「地区のメンバー」が48.1%と最も多く、次いで多かったのは「職場の同僚」で19.8%であった。過去のミラたんカップの参加経験は「今回が初めて」が67.9%、次いで前回の「第2回大会」が18.5%。そして、「全大会出場」が12.3%、「第1回大会」は1.2%であった。よってリピーターの割合は32.0%であった。

2) 参加理由

参加理由としては「同行者に誘われたから」が38.3%で最も多く、次いで多かったのが「楽しそうだったから」で28.4%、「ボッチャがしたいから」で16.0%であった。一方、「ユニバーサルスポーツに興味があったから」は6.2%と少なかったことから、ミラたんカップをユニバーサルスポーツの大会と位置付けて参加した参加者は少なかった。

表1 対象者の属性

年齢(平均±標準偏差)	52.73 ±20.626 歳	
年代	n	%
10歳代	9	11.1
20歳代	4	4.9
30歳代	7	8.6
40歳代	10	12.3
50歳代	16	19.8
60歳代	15	18.5
70歳代	20	24.7
性別	n	%
男性	42	51.9
女性	39	48.1
チームメンバーの関係性	n	%
地区のメンバー	39	48.1
職場の同僚	16	19.8
家族	11	13.6
友人	10	12.3
その他	5	6.2
過去のミラたんカップの参加経験	n	%
全大会出場	10	12.3
第1回大会	1	1.2
第2回大会	15	18.5
今回が初めて	55	67.9

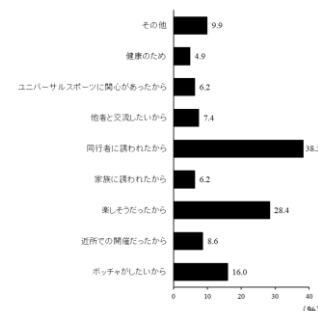
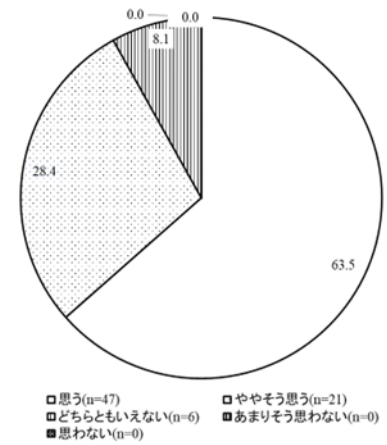


図1 大会参加の理由 (%)

3) 再参加意欲

今後もミラたんカップへの参加意欲は「思う」が 63.5%、「ややそう思う」が 28.4%で合わせて 91.9%の参加者が次回大会以降も参加したいと答えた。一方、「あまりそう思わない」、「思わない」と答えた者はいなかった。また、今後も定期的なボッチャ大会の開催を望むかという質問では 94.4%の人が「望む」と答えた。



4) 大会の満足度とその理由

大会の満足度としては「満足している」が 62.2%で最も多く、次いで多かったのが「やや満足している」で 31.1%であった。よって参加者の 93.3%は大会に満足しているということが分かった。一方、「どちらともいえない」は 4.1%、「やや不満である」「不満である」はともに 1.4%であった。「満足している」「やや満足している」の理由としては「楽しかったから」や「多くの人と交流できたから」「運営がスピーディーだったから」が主に挙げられた。「どちらともいえない」「やや不満である」「不満である」の理由としては「負けてしまったから」「面白かったけど負けたから」「練習の成果が出せなかったから」など自らの試合結果に対する不満のみであった。

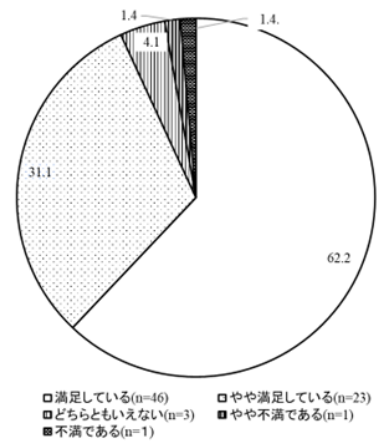


図3 大会の満足度 (%)

5) 運動有能感×大会の満足度

岡沢ら(1996)が作成した「運動有能感測定尺度」を用い、大会参加者の運動有能感を測定した⁵⁾。各項目の回答を点数化し、総得点を計測した。最大値は 57 点、最小値は 12 点、平均は 37.49 点となった。各項目の総得点について平均値をもとに 2 分し、参加者を運動有能感の高群と低群に分けた。(以下、平均より高い層を「運動有能感高群」、低い層を「運動有能感低群」とする) 満足度についてカイ二乗検定を行った。結果、有意差は確認できず、このことからミラたんカップは運動が得意な者、不得意な者のどちらも満足して楽しめる大会になっているということが分かった。

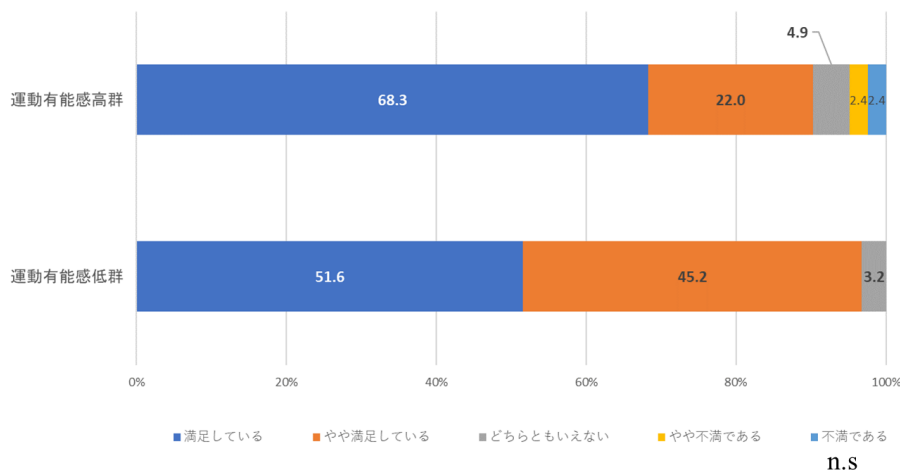


図4 運動有能感と満足度の関係 (%)

6) ボッチャを通じて、日常で関わらない人と交流したいと思うか

「ボッチャを通じて日常と関わらない人と交流したいと思いますか」と訊ねた質問では「どちらかというに関わりたい」が最も多く54.2%、次いで「ぜひ関わりたい」が41.7%、と合わせて95.9%の者がボッチャを通じて、日常で関わらない者と交流したいと思っているということが分かった。一方、「どちらかというに関わりたくない」が4.2%「関わりたくない」が0%であった。この結果から、大会参加者のほとんどはボッチャを通して、日常で関わらない者と交流したいと思っているということが分かった。

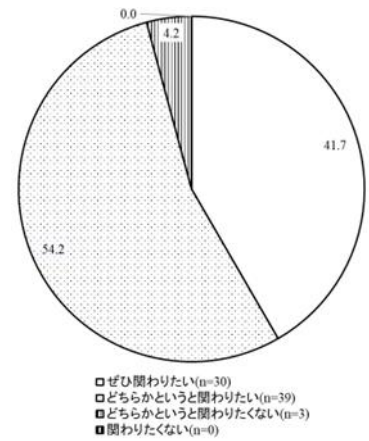


図5 ボッチャを通じて、日常で関わらない人と交流したいと思うか (%)

7) ボッチャ大会を通じてユニバーサルスポーツについて関心を持ったか

「このボッチャ大会を通じてユニバーサルスポーツについて関心を持ちましたか」と訊ねた質問では「思う」が最も多く50.0%。次いで「ややそう思う」が36.5%。「どちらともいえない」が10.8%。「あまりそう思わない」が2.7%であった。このことから、参加者の大半がこの大会を通じてユニバーサルスポーツに興味を持ったということが分かった。

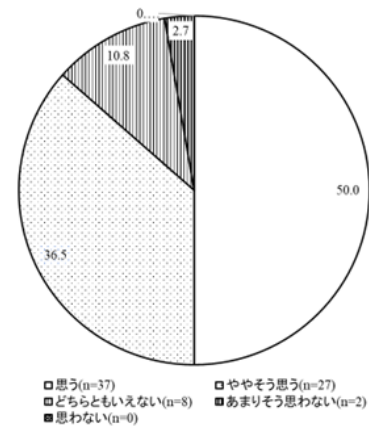


図6 ボッチャ大会を通じてユニバーサルスポーツについて関心を持ったか (%)

8) ボッチャのイメージ

「ボッチャのイメージを3つお教えてください」と訊ねたところ、図7、図8のような結果が得られた。図7は抽出語を単純集計し、ランキング化させ、20位まで表示したものであり、図8はテキストマイニング法を用いて共起ネットワーク分析した結果である。

図7のように、「誰でもできる」や「年齢を問わない」という回答が多くあったが、図8に示されているそれらの回答と他の抽出語との関係性をみると、繋がりは見受けられなかった。「誰でもできる」、「年齢を問わない」というイメージ自体は参加者の回答から浮き上がったが、それらが「楽しい」や「交流」に繋がらなかった。先述した通り、若者世代ほど参加が少なく、高齢世代ほど参加が多いことや実際に大会に参加した経験からも、多世代交流型のスポーツイベントという印象はなかった。

抽出語	品詞/活用	頻度
1 楽しい	形容詞	52
2 簡単	形容動詞	28
3 誰でもできる	タグ	20
4 頭を使う	タグ	15
5 難しい	形容詞	7
6 奥深い	形容詞	6
7 年齢を問わない	タグ	6
8 面白い	形容詞	5
9 ルール	名詞	4
10 交流	サ変名詞	4
11 盛り上がる	動詞	4
12 チームワーク	名詞	3
13 ボール	名詞	3
14 気軽	形容動詞	3
15 作戦	名詞	3
16 場	名詞C	3
17 投げる	動詞	3
18 立てる	動詞	3
19 スポーツ	名詞	2
20 楽しめる	動詞	2

図7 ボッチャのイメージ

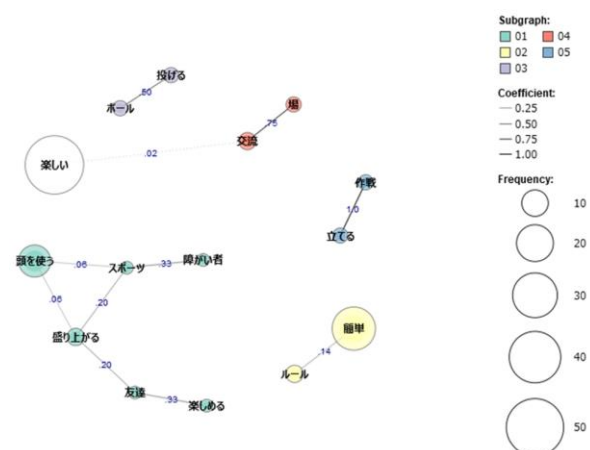


図8 ボッチャのイメージ(テキストマイニング法)

9) 調査結果の整理

【年代】参加者の年代は10歳代が11.1%、20歳代が4.9%、30歳代が8.6%と若者の参加率が低かった。

【満足度・再参加意欲】93.3%の参加者は大会に満足しているということが確認され、大会の満足度は非常に高いということが分かった。また、94.4%以上の参加者が今後もボッチャ大会に参加したいと答え、再参加意欲は非常に高いことが確認された。

【ボッチャを通じた人々との交流】参加者の約95%がボッチャを通じて普段関わらない者との交流を望んでいることが分かった。

【大会後のユニバーサルスポーツについての関心】ボッチャ大会を通じてユニバーサルスポーツに関心を持ったと答えたのは参加者の約86.5%であり、このボッチャ大会は参加者のユニバーサルスポーツに対する関心を高めるイベントになっているということが分かった。

5. 調査研究に基づく提言

- 1) 若年層の参加者を増やすために小学校だけでなく中学校、高等学校でもキャラバンを行う。
- 2) 再参加意欲・満足度ともに非常に高いため、来年度以降も継続的に大会を開催する。
- 3) 参加者の交流の場を作る。具体的には、全試合終了後に大会メンバーをランダムで組み合わせたエキシビジョンマッチを行うことや大会後に交流できるようなレセプションの場を設ける。
- 4) ボッチャだけでなく複数のユニバーサルスポーツと同時体験会を開催し、ユニバーサルスポーツへの理解をさらに深める。

6. 課題解決策の自己評価

【成果及び展望】本調査ではボッチャ大会の参加者の特性を顕在化させ、方策を明示するという目的を果たすことができた。また、大会参加者が大会に対するニーズを把握することによってユニバーサルスポーツの更なる普及について検討することができた。また、本フィールドワークでは、魚津市（役所）を始め、様々な団体と協力・研究環境を構築し、本課題を追求できたことも成果の一つであると捉える。調査研究のみに留まらず、今後施策を考察し、実装するうえで必要な連携に寄与する役割となり地域活性に貢献する事ができたと捉えたい。市民・行政・教育機関の3者が連携し合いユニバーサルスポーツ参画の機会を共創する一つの事例となり、これからのユニバーサルスポーツ大会の新たな在り方と可能性を検討する契機となった。本調査の結果が魚津市のボッチャを通じたユニバーサルスポーツの振興につながることを期待したい。

【研究上の課題】調査はミラたんカップ参加者のみが対象者となっていたため、ミラたんカップ参加者以外の層を対象とした研究は今後の課題である。

【謝辞】全面的に協力して頂いた魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課の皆様、大会運営をしてくださったスポーツ推進委員の皆様、藤井友里子氏、そして調査協力をして頂いたミラたんカップ参加者の皆様に感謝申し上げます。

引用参考文献

- 1) スポーツ庁(2022)、第3期スポーツ基本計画の概要（詳細版）
- 2) 日本パラスポーツ協会（2022）、パラスポーツの振興・共生社会の実現に係わる意識調査
- 3) 中村真博(2022)、パラスポーツが共生意識に及ぼす影響に関する考察(2) - 2019年と2022年の調査結果の比較を通して - 、パラリンピック研究会紀要第19号：135-154
- 4) 日本パラスポーツ協会（2022）、2030年ビジョンー活力ある共生社会の実現に向けてー：
(https://www.parasports.or.jp/news/data/2030Vision_Pamphja_20221108.pdf)
- 5) 岡沢祥訓・真佐美・諏訪祐一郎(1996)、運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究、スポーツ教育学研究16号：145-155